



土曜教育活動



高校生とテニスを楽しもう (上島子ども体験教室【上島町】)

①【新居浜市】土曜寺子屋教室	62
②【西条市】中央公民館子ども美術教室	63
③【上島町】上島子ども体験教室	64
④【東温市】川内わんぱく広場	65
⑤【愛南町】ワクワク体験教室	66

土曜寺子屋教室【新居浜市】

～人間性豊かな子どもを育てる～

◆活動の目的・理念

- 「礼を正し、場を清め、時を守る」子どもの育成
- 市内児童の校外生活の充実を図る「学びの場」づくり
- 経験豊かな教育会所属OBの教育愛に基づく知恵と創意を生かした指導

活動場所	新居浜市教育会館	対象学校区名	市内全小学校区	子どもの平均参加人数	37 人/日
開催日数 曜日・時間	土曜日 日・休業日等	34 日 2 日	10 : 00 ～ 12 : 00 10 : 00 ～ 12 : 00	活動のべ 日数	36 日
土曜教育サポーターのべ人数	21 人	教員OB	ボランティアのべ人数	74 人	土曜教育支援員のべ人数 教員OB
参加者募集	各小学校を通じて募集要項と受講申込書を配布		連携・協力 機関・団体	市内全小学校	

取組の概要

<主な取組内容>

- **子ども囲碁道場**
囲碁のルールの基本から対局。
- **子ども英語教室**
英語の発音に慣れ親しむ。
- **書を楽しむ**
毛筆の技術上達を目指す。
- **読書の広場**
読書活動、読み聞かせ。
- **篠笛は友だち**
日本の伝統楽器篠笛の吹き方を習う。
- **できる算数教室**
計算力のアップを目指す。
- **お茶席の作法**
簡単なお点前のお稽古。
- **子ども俳句教室**
俳句の作り方の学習。



(子ども英語教室での活動)

児童の感想

- ・難しい問題を、丁寧に教えてくれるので、解けるようになって嬉しかった。
- ・1月2日に書き初めを寺子屋教室でできたのが楽しかった。
- ・前は、人前で発音するのが恥ずかしかったけど、今は恥ずかしくなくなった。

<特色ある取組>

● 「成果発表会」の開催

例年、11月に土曜寺子屋教室で学ぶ児童の学習成果を発表する「土曜寺子屋教室成果発表会」を新居浜市文化振興会館にて実施。習字、俳句、本の帯作品展示、英語の自己紹介、算数教室活動感想展示のほか、囲碁対局、篠笛演奏、俳句・英語発表、お茶会などをする。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一堂に集まることは避け、2月に3日間かけてパネル展示等を行い、普段の活動を紹介する予定。



(篠笛は友だちでの活動)

事業を実施して

【成果】

- 学校の枠を越えてコミュニケーションができた。
- 学校の授業では触れる機会が少ない、お茶や囲碁、篠笛などを体験できた。

【課題】

- 講師の高齢化に伴う後継者の育成が求められる。
- 小学校との連携を密にし、情報交換等を進める必要がある。
- 講座数が減少しており、新しい講座を開設する必要がある。

中央公民館子ども美術教室【西条市】

～豊かな感性と表現力を育てよう～

◆活動の目的・理念

- 子どもの豊かな感性や表現力を養う。
- 絵を描くことの楽しさや完成させることの喜びを味わう。
- 持続力、集中力を養う。

活動場所	中央公民館	対象学校区名	西条市内全域	子どもの平均参加人数	17 人/日
開催日数 曜日・時間	土曜日 日・休業日等	10 日 日	9 : 00 ~ 12 : 00 : ~ :	活動のべ 日数	10 日
土曜教育サポーターのべ人数	人		ボランティアのべ人数	37 人	土曜教育支援員のべ人数 保護者
参加者募集	各小学校を通じてチラシを配布	連携・協力 機関・団体	教員OB		

取組の概要

<主な取組内容>

- 50色クレパスや水彩絵の具、パステル等、いろいろな画材を使い、テーマに沿って表現する。

活動内容

- (1) 家族を描く
- (2) 動物を描く
- (3) 夏休みの思い出
- (4) 乗り物を描く
- (5) 水彩画
- (6) 空想の世界
- (7) パステル画
- (8) 紙版画で年賀状を作る
- (9) 自由作品
- (10) 作品鑑賞・作品展示の準備



(先生のアドバイスをを受けて作品を完成させます。
迫力のある作品がたくさん出来上がります。)



(作品鑑賞と展示)

(紙版画は、いくつもの工程があり、みんな一生懸命、制作しています。)

児童・生徒の感想

- ・塗り方や構図等についてレベルの高い指導をしてもらっていて、この教室でないとできないことなどがある。
- ・いろいろなことができて楽しい。

<特色ある取組>

- 市内全域から参加するので、地域内では経験できない出会いがあり、交流が広がっている。
- レベルの高い技法を学び、普段は使うことのない50色クレパスやパステル等の画材で制作をしている。
- 制作した作品から数点選び、毎年作品展を中央公民館ロビーにて開催している。今年度は1月下旬から2週間程度開催した。その際、アンケートを実施し、作品鑑賞の感想を聞いている。

事業を実施して

【成果】

- 高い技法を学び、絵を描く楽しみや喜びが増している。
- 準備・片付けは当番制で行っているが、指導者や保護者だけではなく、子どもたちが積極的に参加している。当番以外の児童も手伝ってくれている。

【課題】

- コロナ対策の為、定員を少なくしての実施になった。指導者と協議し、昨年度登録者と新たに申し込んだ生徒に分けて抽選を行った。工夫はしているが、落選者の受け皿を考える必要がある。

上島子ども体験教室【上島町】

～地域ぐるみでふるさとを愛する子どもを育てよう～

◆活動の目的・理念

- 地域資源を活用した体験活動を実施し、子どもの健全育成、ならびに子どもの居場所づくりを進める。
- 特色と魅力のある教育プログラムを企画・実施し、子どもたちの成長を支え、地域と学校の連携・協働による教育活動を推進する。

活動場所	町内各施設・野外等	対象学校区名	上島町内全小学校(4校)	子どもの平均参加人数	20 人/日
開催日数 曜日・時間	土曜日 日・休業日等	4 日 日	9 : 30 ~ 11 : 30 : ~ :	活動のべ 日数 4 日	土曜教育支援員 のべ人数 4 人
土曜教育サポーターのべ人数	人		ボランティア のべ人数 10 人	高校生、保護者	
参加者募集	各小学校を通じてチラシを配布	連携・協力 機関・団体			

取組の概要

<主な取組内容>

● フライングディスク体験

コロナ禍により、子どもたちの運動の機会が激減していることから、誰でも気軽にできるスポーツとして、フライングディスク体験を実施した。また、障がい者スポーツを知ってもらう機会とし、パラリンピックの気運を高めることをねらいとした。

● 高校生とテニスをしよう

スポーツを通じて、異年齢交流の場をつくることを目的に行うと同時に、普段する機会のないスポーツを体験した。

● リースづくり

自然の物を使ったものづくりを体験して、自然に触れる機会をつくり、クリスマスリースと、お正月用リースを作ること、季節の行事への理解を深めることを目的とした。



(ディスクゴルフに挑戦)



(真剣にボール打ち返す子どもたちの様子)

児童・生徒の感想

- ・違う学校の子とも仲良くなれたので良かったです。また参加したいです。
- ・投げ方を教えてもらうことで、上手にできるようになって嬉しかったです。学校に帰って友達にも教えてあげたいです。
- ・先生や高校のお姉ちゃんが優しく教えてくれたから、テニスができました。
- ・難しさや楽しさを知れて良かったです。楽しかったのでまたやりたいです。

<特色ある取組>

● 高校生とテニスをしよう

年に1回必ず実施する、『高校生と〇〇しよう!!』

場所は町内に唯一ある県立高校で、高校教諭を講師に高校生との体験学習を実施。今年度はテニス教室を開催した。スポーツの魅力を活かし、地元の高校のよさを知ること、子どもたちの視野を広げることができたと実施している。「高校生のお姉ちゃんとオリンピックに出たい」といった低学年の感想もあり、弓削高校の魅力化にもつながっている。



(仲良くなった高校生と集合写真)

事業を実施して

【成果】

- 普段、学校や家庭ではなかなかできない教室を企画し、3密回避と体を動かすことをメインに企画することができた。
- 児童は楽しんで参加しており、活動後のアンケートには、「また参加したい」との回答が多かった。
- スポーツをすることで、学校毎の垣根がなくなっていた。

【課題】

- コロナ禍においても実施できる教室を検討した。
- 地域の中の多様な経験や技能を持つ人材を活かした、特色と魅力のある教育プログラムを企画し、継続して実施したい。

川内わんぱく広場【東温市】

～体験活動を通して、地域総がかりでわんぱくキッズを育てよう～

◆活動の目的・理念

- 土曜日の教育環境を豊かなものにする。
- 体験活動を通じて、地域の自然や文化を再認識する。
- 想像力や健全な心身を養い、地域間交流の活性化を図る。

活動場所	東温市川内公民館		対象学校区名	東温市立川上小学校、東温市立東谷小学校、東温市立西谷小学校		子どもの平均参加人数	10 人/日
開催日数 曜日・時間	土曜日	5 日	9 : 00 ~ 12 : 00	活動のべ 日数	5 日	土曜教育支援員 のべ人数	人
土曜教育サポーターのべ人数	人			ボランティア のべ人数	人		
参加者募集	年度初めに各小学校を通じてチラシを配布し受講生を募集		連携・協力 機関・団体	東温市生活研究協議会ほか			

取組の概要

<主な取組内容>

● 消しゴムはんこ

- ・○☆などの図案から、好みのものを選択し、図案を写し、消しゴムをカットした。その後、デザインカッターを使用して線を彫る作業を行い、試し押しをした。

● 郷土料理講座及びポップリ作り

- ・普段何気なく食べている食事には多くの「力」があることを学び、班で協力しながら調理を行った。
- ・ポップリ作りでは、東温市産の材料を使い制作した。

● カーリング体験

- ・準備運動を行い、講師から基本的な説明を受け、最後はゲーム形式によりカーリングを実施する予定。



(消しゴムはんこづくりの様子)

児童の様子

- ・消しゴムはんこ作りでは、講師からの説明を真剣に聞き、工夫しながら作業を行っていた。中には、「家に材料を持ち帰って作ってみる」などの意欲的な発言が聞かれた。

<特色ある取組>

● 郷土料理教室及びポップリ作り

農業や加工品作りをしている人から様々な話を聞きながら、東温市産の材料を用いて調理することで、地域食材を知ることができた。また、ポップリ作りでは「ポップリとは何か？」について説明を受け、好みの材料を選び、飾りつけを工夫しながら容器に入れ、香りを楽しんだ。



(調理する参加者の様子)

事業を実施して

【成果】

- 地域団体や地元企業の協力を得て、子どもたちが豊かな体験や経験を重ねることができている。
- 工作、料理やスポーツなど、活動内容は多種多様で、子どもたちにとって様々な学びになっている。

【課題】

- 地域間交流を目的とした事業であるものの、小規模校児童の参加がない。
- 地域との連携を模索しているが、地域に眠っている人材の掘りおこしを常時行っていく必要がある。

ワクワク体験教室【愛南町】

～愛南町を愛する子どもを育てよう～

◆活動の目的・理念

- 子どもたちに、学校の教育課程に留まらない体験的な活動、補充・発展的な学習を提供する。
- 子どもたちの心身の健やかな成長を支援する。
- 地域の豊かな自然を舞台として、専門的な知識を持つ指導者から学ぶ機会を提供することで、子どもたちに郷土愛を醸成する。

活動場所	活動によって異なる		対象学校区名	愛南町全小中学校			子どもの平均 参加人数	15	人/日
開催日数 曜日・時間	土曜日	3 日	活動によって異なる	活動のべ 日数	4 日	土曜教育支援員 のべ人数	5	人	
	日・休業日等	1 日							
土曜教育サポ ーターのべ人数	7 人	元教員、元公務員 等			ボランティ アのべ人数	1 人			
参加者募集	各小・中学校を通じてチラシを配布			連携・協力 機関・団体	各小・中学校、各公民館 等				

取組の概要

<主な取組内容>

- シーカヤックに挑戦しよう！



- 中秋の名月を観察してみよう！



児童の感想

- ・思ったよりも漕ぐのが大変だったけど、気持ちよかった。
- ・腕が疲れたけど、楽しかった。海がすごくきれいだった。

児童の感想

- ・望遠鏡でしっかり月を観察することができた。
- ・思っていたよりも難しかったけど、とても楽しかった。また参加したい。
- ・月や星がきれいに見えてうれしかった。

<特色ある取組>

- 篠山の自然を楽しもう

町内にある篠山（標高約1065m）への登山を行った。一帯は国立公園、県立自然公園に指定されており、アケボノツツジなどの自然植物の宝庫で、古くから山岳信仰の霊地として知られた山である。

子どもたちは、環境省自然保護官による自生する植物や、山道の歩き方などについてのクイズに挑戦し、ともに学びながら、約1時間かけて登頂した。頂上では、そのすばらしい眺めに皆歓声をあげ、笑顔があふれていた。



（自然保護官によるクイズに挑戦する子どもたち）

事業を実施して

【成果】

- 年間を通じて、子どもたちに様々な体験を提供することができた。
- 愛南町の自然に子どもたちを触れ合わせることができた。
- 子どもたちの輝く笑顔を見ることができた。

【課題】

- 日程の調整や参加者集めが難しいが、各機関と連絡調整を行い、参加しやすい日程や時間の設定に努める。
- 参加者が固定化しないよう、教室の内容の充実と活動を周知し、幅広い参加者集めに努める。

家庭教育支援



ふたみの井戸端会議～子育てホンネトーク～ (伊予市家庭教育・子育てサポートグループ 【伊予市】)

①【四国中央市】家庭教育支援チームふれ愛グループ	68
②【西条市】子育て学習講座	69
③【今治市】家庭教育学級・子育て学習講座	70
④【上島町】家庭教育支援・子育て講座	71
⑤【伊予市】伊予市家庭教育・子育てサポートグループ	72
⑥【砥部町】砥部町家庭教育支援チーム	73
⑦【久万高原町】久万高原Happyサポート	74
⑧【大洲市】大洲子育てサポート“そよ風”	75
⑨【西予市】せいよ家庭教育・子育て応援グループ	76
⑩【宇和島市】宇和島市家庭教育支援チーム	77
⑪【愛南町】あいなん子育て応援グループ	78

家庭教育支援チームふれ愛グループ【四国中央市】

～絆を深め、心の通い合った温かい支援を目指して～

◆活動の目的・理念

- 家庭教育や子育てに関する講座を推進し、家庭教育力の向上を図る。
- 懇談会や相談活動を通して、保護者の悩みを共有し、温かい支援に努める。
- 子育ての拠り所となる子育て情報を発信し、活動の絆を深める。

活動拠点	妻鳥公民館・寒川公民館	講座・学習 会開催数	11 回	相談対応 件数	4 件	訪問活動	件
広報活動	1 回	連携・協力 団体・機関	市内保育園・幼稚園33園、小学校19校、中学校7校、公民館3館				
チーム スタッフ	地域コーディネーター 名	子育てサポーター・リーダー 2 名	民生委員・児童委員 名				
	元教職員 3 名	PTA役員 名	保健師 名				
計 8 名	心理士・スクールカウンセラー 名	支援団体・NPO関係者 名	その他 3 名				

取組の概要

<主な取組内容>

● 親の子育てを応援する学習会の開催 ☆ 子育て講座（小学校11回）

新型コロナウイルス感染症の影響で開催が心配されたが、市内の小学校11校から依頼があり、感染予防を徹底した上で学習会を実施することができた。小学校入学を控え、保護者が不安に思っていることや、基本的な生活習慣の大切さ、スマートフォンやゲーム機の正しい使い方、温かい家庭づくり等について語りかけた。保護者は頷いたりメモを取ったりしながら、真剣に耳を傾けていた。

● 必要な支援へとつなぐ相談活動の実施

妻鳥公民館と寒川公民館を拠点に、いじめや不登校等で悩んでいる保護者からの相談を受け、前向きに進んでいけるようアドバイスしている。

● 公民館との連携

土居公民館で未就園児と保護者を対象に学習会「キッズステーション」を開催しているが、今年は新型コロナウイルス感染症で緊急事態宣言が出たため、4月～7月は活動を休止した。その後、8月から月1回活動することができた。

● 効果的な情報提供

家庭教育の指針として、保護者の心の拠り所となるリーフレットを作成し、保育園や幼稚園、小学校、中学校の保護者に配布している。

保護者の感想

- ・改めて「早寝早起き朝ごはん」の大切さが分かりました。家族みんなで頑張って取り組んでいきたいです。
- ・「子どものよさを伸ばそう」はとても参考になりました。どうしても欠点ばかりが目についてしまっていました。子どもとの接し方を考え直さないといけないと思いました。



（キッズステーション）

<特色ある取組>

● 子育て講座

就学時健康診断のときに子育て講座を行っている。今年度は市内11校で実施した。「早寝早起き朝ごはん」の大切さやスマートフォンやゲーム機の適切な使い方、ほめ方・叱り方や子どもからのサインの気付き等、家庭教育の学びを届けている。経験からの話や失敗談を交えながら、保護者が親近感をもって受け入れられるように工夫している。



（中之庄小学校での子育て講座）

事業を実施して

【成果】

- 就学時健康診断時の子育て講座の依頼が増えている。「早寝早起き朝ごはん」等の基本的な生活習慣や子どもの話に耳を傾け、深い関心をもって接する姿勢が大切であると語りかけている。頷きながら真剣に耳を傾けて聞いてくれている。

【課題】

- 新型コロナウイルス感染症のため、子育て懇談会ができなくなり、活動が制限されてしまった。保護者と触れ合い語り合う機会を多く持ちたいと思っている。

子育て学習講座【西条市】

～学校や地域とともに築く家庭教育～

◆活動の目的・理念

- 各年齢層の児童・生徒を持つ保護者のために、参観日や保護者会等の機会を利用し、子育てに関する講座を実施することにより、家庭教育の向上を図ることを目的とする。

活動拠点		講座・学習 会開催数	46 回	相談対応 件数	件	訪問活動	件
広報活動	3 回	連携・協力 団体・機関	小学校25校、中学校10校、各小中学校PTA				
チーム スタッフ	地域コーディネーター	名	子育てサポーター・リーダー	名	民生委員・児童委員	名	
	元教職員	名	PTA役員	名	保健師	名	
計 0 名	心理士・スクールカウンセラー	名	支援団体・NPO関係者	名	その他	名	

取組の概要

＜主な取組内容＞

- 小学校での就学時健診等を活用した子育て学習講座
 - ・就学前の子どもを持つ親を対象とした講座
 - ・各小学校単位で実施
- 小学校での参観日等を活用した子育て学習講座
 - ・小学生の子どもを持つ親を対象とした講座
 - ・各小学校単位で実施
- 中学校での参観日等を活用した子育て学習講座
 - ・中学生の子どもを持つ親を対象とした講座
 - ・各中学校単位で実施



(グループに分かれてワークショップ)

保護者の感想

- ・困った子と感じるのではなく、子どもが今困っている、その不安を取り除いていけるような親でありたいと感じた。(就学時「困った子は、困っている子」)
- ・食事は心の成長に直結するという話を聞き、食事や食事の時間を大切にしたいと思った。(就学時「今だからできる子育て」)
- ・子どもをすぐに叱ってはいけなと感じた。転ばない方法より起き上がる方法を一緒に考えたい。(参観日「大切なこと」)
- ・「親だって完璧でなくてもよい、子どもたちが話しやすい、そんな関係性が大事」という話から、子どもと向き合う中でもう少しゆったりした気持ちで見守っていこうと思った。(思春期「教育現場から学んだこと」)



(小グループでの話し合い 他の保護者と話すことができ、入学前に仲間づくりができる。)

＜特色ある取組＞

- グループワーク等の活用

グループで話し合いをしたり、保護者の感想を基に講師が話題を広げたりと講演内容に工夫があり、保護者も主体的に参加できたという実感が得られた。(就学時「人間は食べたものでできている」)
- 講座開催時間の工夫

コロナウイルス感染症対策もあり、2校時と4校時に参観日を分散し、間の時間に講演会を実施した。その結果、保護者が参加しやすくなり、参加人数が増えた。(参観日「子どもの多様な学びの必要性」)



(メモに書いてもらった質問や意見に答える・・・誰もが講演に参加できたという実感が！)

事業を実施して

【成果】

- 発達障がいに対する具体的な支援方法の理解につながり、子育てにおける不安や疑問を解消することができた。
- 子育てに困ったとき、相談できる場所を伝えることができた。
- 入学までの親子関係の作り方や支援の仕方を理解してもらうことができた。

【課題】

- コロナ感染拡大防止のため体育館で講演を行ったが、講師と保護者の距離が大きくなり、講師がアイスブレイクを図ってみたがなかなか心理的距離を縮めることが難しかった。
- 配慮を要する児童への対応の話など、教職員が一緒に参加できないのが残念(就学時健診時)。

家庭教育学級・子育て学習講座【今治市】

～学校・PTA・地域と連携した講座の実施～

◆活動の目的・理念

- 児童・生徒が心身ともに健全な成長をするように、学習活動をととして家庭における成人の役割を学び、心豊かな明るい家庭環境づくりと青少年の健全育成をめざす。

活動拠点	小・中学校	講座・学習 会開催数	150 回	相談対応 件数	件	訪問活動	件
広報活動	回	連携・協力 団体・機関	家庭教育学級(小学校20校、中学校11校、各学校PTA) 子育て学習講座(小学校15校)				
チーム スタッフ	地域コーディネーター	名	子育てサポーター・リーダー	名	民生委員・児童委員	名	
	元教職員	名	PTA役員	名	保健師	名	
計 0 名	心理士・スクールカウンセラー	名	支援団体・NPO関係者	名	その他	名	

取組の概要

<主な取組内容>

● 子育て学習講座

- ・小学校の就学時健康診断の機会を活用
- ・講師は校医、保健師、発達支援センター職員など
- ・子どもの健康管理や身に付けさせたい生活習慣、子どもとの向き合い方などについての講座

参加者の声

- ・基本的な生活習慣の大切さが分かり、早寝、早起きを心掛けたい。
- ・新型コロナウイルス感染症について理解ができた。
- ・「お母さんも元気でないといいません」の講師の言葉に涙が出そうになった。余裕が大事。言うことを聞かせるのではなく、何かにチャレンジする子を育て、応援したい。
- ・ちょっとしたことに褒めて、認めてあげ、自分の型にはまらない子育てをしていきたい。
- ・聞くだけでなく、自分の今日の出来事を話すようにしよう。
- ・子どもの言動の本当のところを見つめてみよう。思った以上に気が付いていないことが多い。また、排便の大切さを子どもと話し合いたい。
- ・やはりスマホ、タブレット、ゲームには気を付けないといけない。ゲームに代わる家族で楽しめる遊びを模索していこう。親子の絆の大切さを知りました。

● 家庭教育学級

- ・PTAの組織を通じた研修会の開催
- ・地域の特性を生かした講座
- ・最新のニーズに応える講座



(子育て学習講座「入学を控えて」)

1.withコロナ、2.最近気になることをテーマに、各家庭での子どもとの向き合い方、接し方についての助言があった。クイズ形式の問題もあり、参加者は楽しみながら学習していた。

<特色ある取組>

● 家庭教育学級

家庭教育学級では、市内小中学校PTAが地域の特性を生かし、地魚料理教室や趣味を生かした手作り雑貨教室等を実施している。また、新型コロナウイルス感染症に関する講話もあり、参加者は関心を持って聞いていた。本学級は各PTAが工夫をこらし、参加者の交流の場ともなっている。



(家庭教育学級(地魚料理教室))

事業を実施して

【成果】

- 子育て学習講座では、子どもの健康管理や「早寝、早起き、朝ごはん」の生活習慣、また、子育てをする上での留意点について、講師から指導・アドバイスを受けることができた。参加者にとって子育ての方法を見つめ直す良い機会となった。また、新型コロナウイルス感染症に関する話もあり関心を寄せていた。
- 家庭教育学級では、親子で料理教室等食育に関する学習から新型コロナウイルス感染症に関する話など、様々な実践、学習活動が行えた。この教室を通して、家庭環境づくりや参加者同士の交流が深まり、お互いが家庭の相談をしやすい環境をつくることができた。各家庭での実践が期待される。

【課題】

- 平日の昼間に実施するため参加者が限定されていることから、男性の参加が難しいと思われる。学校施設を利用しているため拡充が困難でもある。
- 家庭教育学級では、実技、レクリエーションと講座を組み合わせることで楽しく学ぶことができたが、家庭教育に重点を置いた幅広い研修が望まれる。

家庭教育支援・子育て講座【上島町】

～学びあいと交流を大切にした子育て支援～

◆活動の目的・理念

- 家庭教育における課題を探り、子どもの発達段階や親としての心得、子どもが抱える問題等について学習する機会をもつことで、全ての保護者が安心して家庭教育を行える環境づくりを進める。
- 家庭教育における悩みを相談し合い、情報交換できる場をつくる。

活動拠点	弓削中央公民館 魚島中央公民館	講座・学習 会開催数	7 回	相談対応 件数	件	訪問活動	件
広報活動	回	連携・協力 団体・機関	保育所3園、小学校1校、中学校2校、保健センター				
チーム スタッフ	地域コーディネーター 元教職員 計 0 名	名 名 名	子育てサポーター・リーダー PTA役員 支援団体・NPO関係者	名 名 名	民生委員・児童委員 保健師 その他	名 名 名	

取組の概要

＜主な取組内容＞

● 親子ふれあい教室

- ・ファーストサイン講座・・・親子の育児ストレスの解消や絆づくり、また、親同士の交流、情報交換の場の提供。
- ・ベビーマッサージ・・・親子の絆を深めることを目的にベビーマッサージを通したふれあいを体験する。
- ・ハンドマッサージ・・・親子でリラックスした時間を過ごすとともに、親子のスキンシップ、ふれあいの時間を持つ。
- ・いい歯のはなし・・・乳歯の虫歯を予防するために、大切な飲食物の与え方や、ブラッシングのコツについて学ぶ。

● 子育て講座

学校の参観日を活用し、親子で学べる講座を実施している。

- ・中学生のみなさんに知っておいてほしいこと
～姿勢・運動・セルフケアについて～

親子で体を動かしながら、成長期の体について学ぶ機会を持つことを目的に開催。



(気持ちよさそうにママにマッサージをしてもらうベビーちゃん)



(ブラッシング指導の様子)

保護者の感想

- ・言葉でなくても気持ちは伝わるということが分かり、安心した。普段の生活に取り入れていきたい。
- ・教室に参加することで、他の子の様子も知れたり、保護者と交流できたり、楽しく過ごせ、日頃の不安も取り除けた。

＜特色ある取組＞

● 子育てサロンおひさまとの共催

今年度、岩城地区の親子ふれあい教室では、子育てサロンおひさまと共催で教室を実施。少人数だからこそできる企画をし、季節を感じられる遊びや身体づくりの要素も取り入れた。とくに大きなエアートランポリンは好評であった。子どもたちも楽しむことができ、保護者同士の交流や子育て不安が軽減するよう、保護者支援にも取り組むことで、気軽に楽しんでもらうことができ、子育てサロンに継続的に通う参加者が増えた。



(エアートランポリン遊び)

事業を実施して

【成果】

- 学校や保健センターとの連携を図ることができ、より多くの保護者に参加してもらうことができた。
- 親同士の交流の場ができ、普段の育児の悩みなどの情報交換ができた。

【課題】

- 保護者のニーズを把握し、課題解決につながるような講座内容を計画していきたい。
- 保護者同士のつながりをさらに深めていけるような講座の雰囲気づくりを心掛けるとともに、ここでできたつながりがさらに広がっていくよう、継続して取り組んでいきたい。

伊予市家庭教育・子育てサポートグループ【伊予市】

～家庭・地域での家庭教育・子育て支援を目指して～

◆活動の目的・理念

- 地域住民に家庭教育や子育てに関する情報や学習の機会を提供しながら相談活動の充実を図り、共に支え合う家庭・地域づくりを応援する。

活動拠点	伊予市中央公民館	講座・学習 会開催数	4 回	相談対応 件数	20 件	訪問活動	件
広報活動	1 回	連携・協力 団体・機関	市内保育所8園、幼稚園3園、認定こども園4園、小学校9校、中学校4校、公民館6館、子育て支援センター、保健センター、児童センター				
チーム スタッフ	地域コーディネーター	1 名	子育てサポーター・リーダー	名	民生委員・児童委員	名	
	元教職員	4 名	PTA役員	名	保健師	名	
計 13 名	心理士・スクールカウンセラー	名	支援団体・NPO関係者	名	その他	8 名	

取組の概要

＜主な取組内容＞

● 学習会の開催

- ・地域や他の団体と連携した学習会
郡中地区公民館 家庭教育学級
中村地区公民館 子育て座談会
双海地区公民館 ふたみの井戸端会議
～子育てホンネトーク～
大平地区公民館 家庭教育学習会

● 相談の実施

- ・学習会等でのグループ相談活動

● 情報の提供

- ・情報誌「ほのぼの」の発行(年1回)
活動の紹介・子育て悩み相談
子育てを頑張っている家族の紹介



(中村地区 子育て座談会)



(家庭教育情報誌)



(ふたみの井戸端会議～子育てホンネトーク～)

事業を実施して

【成果】

- コロナ禍の中、親子参加型の学習会の実施を控え、各地区公民館との連携による学習会を企画、開催した。今までに実績のなかった地域の方に参加してもらうことができた。
- 初めて学習会を実施する公民館との連携により、新たなつながりができた。

【課題】

- 協力団体は各地域の実情により異なるが、コロナ禍の中、活動を控えている団体もあり、学習会が実施できなかった地域もあった。

砥部町家庭教育支援チーム【砥部町】

～悩みを抱える保護者が気軽に相談できる場所づくり～

◆活動の目的・理念

- 気軽に相談できる場
- 悩みを打ち明けられる場所づくり
- 保護者・地域・学校などのパイプ役になる支援活動

活動拠点	砥部町中央公民館	講座・学習 会開催数	3 回	相談対応 件数	80 件	訪問活動	件
広報活動	3 回	連携・協力 団体・機関	保育所・幼稚園・こども園・小学校・中学校				
チーム スタッフ	地域コーディネーター 1 名	子育てサポーター・リーダー 名	民生委員・児童委員 名				
	元教職員 名	PTA役員 名	保健師 名				
計 5 名	心理士・スクールカウンセラー 名	支援団体・NPO関係者 名	その他 4 名				

取組の概要

<主な取組内容>

● 子育て学習会の開催(年3回)

- ・講師に専門家を招き、3回の子育て学習会を開催した。
- 第1回『「いま」子どもたちのココロは』(講師 心理療法士)
- 第2回『SNSやスマホトラブルから子どもを守る』(講師 愛媛県警察本部 少年課)
- 第3回『地域の子どもたちを見守ろう～砥部町の取り組み～』(講師 スクールソーシャルワーカー)

● 家庭教育相談

- ・特に相談日を設けているのではなく、普段から学習会後に相談に応じている。誰でも気軽に相談できるよう家庭教育支援員について広く周知し、対応している。

保護者の感想

- ・子どもを取り囲む問題への向き合い方を考えさせられた。
- ・身近な内容で勉強になった。



(学習会の様子(第2回目))

<特色ある取組>

● 学習会後の個別相談

学習会のあと、本来なら情報交換として、参加者全員での軽食込みの茶話会の時間を30分ほど設けるようにしているが、今年度はコロナ対策のため、講師やスタッフへの個別相談のみとした。リラックスした雰囲気の中で子育てに関する悩みを打ち明けたり、傾聴したりすることで、子育てに対する不安やストレスなどを解消する場となっている。



(個別相談の様子)

事業を実施して

【成果】

- コロナ禍においての子ども心の变化や戸惑いなどを知らることができ、周りの大人がどう関われば良いか、どのような支援が必要かなどタイムリーなテーマに取り組むことができた。
- 研修で紹介いただいた愛媛県警の方を講師にお招きし、連携を図ることができた。

【課題】

- 今年度はコロナ感染症対策のため、学習会後の茶話会の内容を変えることにしたり、開催自体を延期したりなど、困惑してしまったが、今後はそういった状況にも対応しながら、子育てなどに悩む家庭を支えられる活動をしていきたい。

久万高原Happyサポート【久万高原町】

～気持ちに寄り添うやさしい子育て支援～

◆活動の目的・理念

- 誰もが気軽に利用でき、ほっとひと息できる場所づくり
- リラックスできる環境のなかで、さり気なくかわっていく支援
- 日々の生活のなかで、わかりやすくやさしい支援

活動拠点	地域子育て支援センター HappyHouse		講座・学習 会開催数	14 回	相談対応 件数	60 件	訪問活動	13 件	
広報活動	18 回	連携・協力 団体・機関	幼保連携型こども園1、児童館1、幼稚園9園、小学校9校、中学校2校、保健 センター1、つどいの広場1、高等学校1						
チーム スタッフ	地域コーディネーター	1 名	子育てサポーター・リーダー	2 名	民生委員・児童委員				名
	元教職員	名	PTA役員	名	保健師				1 名
計 17 名	心理士・スクールカウンセラー	1 名	支援団体・NPO関係者	名	その他				12 名

取組の概要

<主な取組内容>

- 子育て情報発信
 - ・子育て通信「キラリ」発行 ・町内全戸に子育て情報発信
 - ・育和会だより及び育和会ホームページに子育て情報掲載
- 学習会「Happyカフェ」開催
 - ・子育て講座、Happy子育てトーク、カルチャーレッスン等
- 子育て相談実施
 - ・Happy HouseおよびNIKONIKO館（児童館）での相談
 - ・つどいの広場での訪問相談
- 保健センターとの連携
 - ・療育教室、療育相談（発達障害など気になる子への対応）
- 子育てサロンでの交流
 - ・ふれあい広場参加 ・遊びの提供 ・託児支援
（親子遊びの楽しさを伝える為、月1回「Happyカフェ」と合流）
 - ・つどいの広場訪問 ・託児支援 ・仲間作りの応援



（子どもとの関わりを話し合う
少人数のグループワーク）



（クリスマス会（ふれあい広場・
Happyカフェ合同））

保護者の感想

- ・コロナ禍で外出も行事も制限されるなかでの子育て。気持ちに寄り添い話を聴いてくださり、子どものいいところを見つけて前向きに向き合ってくれた。温かい支援に感謝している。

<特色ある取組>

● “ハッピーおうち時間” ～家庭生活を応援～

コロナの影響で子育て家庭の日常は一変した。
毎日通っていたHappyHouseは3月～5月末ごろまで閉館、6月からも時間制限のある開館となり、家で過ごすことが多くなった。
拠点のHappyHouseでは家庭生活を応援しようと、“ハッピーおうち時間”として子ども向けの絵本やおもちゃの貸し出しを始めた。続いて母親向けの子育ての本や雑誌の貸し出しを始めたところ利用が多かった。貸し出し時には、制限のある生活の中での母親の疲れや息づまり感など、悩みを受け止めてお聴きした。コロナ禍においても「元気が湧いてくるような、楽しさを見出すような子育て」の理念を持ち、支援を続けている。



（貸出本コーナー（読みやすい
母親向けの子育ての本））

事業を実施して

【成果】

- コロナ禍で町全体の行事やイベントが中止になるなか、行事の時間や内容を制限せざるを得なかったが、工夫することで親子の遊びの大切さを伝えることができた。
- 来館の時間、人数を制限した結果、少人数でゆっくり話し合うことができ、お互いの心の距離を縮めることができた。

【課題】

- 子育て困難者など子育て施設に出てこれない家庭に対して、専門機関と連携して呼びかけていきたい。
- 新たな日常を考えていく今、外に向けて前進していた活動を一度内に向け、人々の気持ちに寄り添う支援をしていきたい。

大洲子育てサポート“そよ風”【大洲市】

～保護者に寄り添う家庭教育支援をめざして～

◆活動の目的・理念

- 乳幼児から思春期までの子育てに関する悩みや心配ごとについて、相談や支援を行う。
- 相談に応じて関係機関と連携し、必要なサポートを行う。
- 情報紙(そよ風通信)や学習会を通して、子育てを考える機会を提供する。

活動拠点	大洲市立喜多小学校	講座・学習 会開催数	11 回	相談対応 件数	70 件	訪問活動	13 件
広報活動	11 回	連携・協力 団体・機関	認定こども園4、保育所13、幼稚園5、小学校12、中学校8、公民館23、児童館3、保健センター、子育て支援センター、子育て支援課				
チーム スタッフ	地域コーディネーター	1 名	子育てサポーター・リーダー	1 名	民生委員・児童委員	名	
	元教職員	3 名	PTA役員	名	保健師	名	
計 8 名	心理士・スクールカウンセラー	2 名	支援団体・NPO関係者	名	その他	1 名	

取組の概要

＜主な取組内容＞

● 利用しやすい相談対応

- ・毎週月・火・木・金 9:00～16:00に電話相談・来所相談・訪問相談を実施。
- ・相談者の要望に応じて、場所や時間を設定し、相談対応を行っている。
- ・児童館での「子育て広場」の後、個別相談対応も行っている。
- ・相談内容によっては、学校やその他の関係機関と連携している。



(子育て広場(児童センター))

● 子育てを応援する学習会の開催

- ・子育て広場(年9回程度、児童館3か所)において、子育てに関する話やグループトークを行っている。
- ・子育て学習会(保育所・幼稚園・小学校)や外部機関・団体の研修会の講師として参加し、参加体験型の活動を取り入れ、楽しみながらも、気づきを促すような学習の場を設定している。



(子育て学習会)

保護者の感想(子育て広場・子育て学習会について)

- ・しつけのことなどいろいろな話をわかりやすく話してもらい、ありがたく思っている。
- ・今の悩みはいつか違う悩みが変わり、それもいつかはなくなって、ひとつの思い出となる時が来ると思い、頑張ろうと思いました。
- ・いろいろな人とおしゃべりできるのが楽しくて、気晴らしになりました。
- ・同じような悩みや心配事を話したり、聞いたりすることで、仲間の存在を知り、気力が湧いてきました。

● 子育てに役立つ情報提供

- ・そよ風通信の発行。毎月1回4,900部発行。市内の全保・幼・小・中学校・その他関係機関に送付。
- ・孤立しがちな保護者、要支援の保護者に対して、ダイレクトに届けられる支援として有効である。

＜特色ある取組＞

● 学校・他機関との連携

- ・児童生徒の問題に対し、保護者や学校等ときめ細やかな連携をしながら、それぞれの立場で役割を果たし、支援を行った。

● 就学時検診の場を利用して子育て学習会を実施

- ・就学時検診時に「入学にあたって保護者に大切なこと」のテーマで学習会を行った。昨年度から小学校からの依頼が増えた。

● 市教委・家庭相談員との定期的な連絡会

- ・当サポートの状況(講座・通信・相談)及び活動の方針、事例検討等の会議を定期的に行っている。活動の広がりを推進し、運営上の問題解消に役立っている。

● 手作り通信

- ・コロナ禍の時期において、コロナ予防や不安への対処等について発信できた。

事業を実施して

【成果】

- 通信発行や子育て広場・子育て学習会の開催により、保護者に予防教育を行うことができた。
- 本チームの認知度や信頼度が高まり、各機関との連携がスムーズに行えるようになってきている。いじめ・不登校の相談等、様々な問題事例を解決することができた。
- 保護者への付き添い・代弁等の寄り添う支援を行うことで、保護者が安心感を持ち、子どもに対応することができている。

【課題】

- 要支援家庭からの相談や支援要請が少なく、支援が十分ではない。
- SNS等を活用した広報活動の整備がなされていないので、若い保護者の利用が少ない。
- コロナ感染予防・対応により学習会、子育て広場等の中止が多く、活動が低迷した。

せいよ家庭教育・子育て応援グループ【西予市】

～親子共育を支える地域力として～

◆活動の目的・理念

- 家庭における教育力の重要性の啓発・底上げ及び保護者の抱える問題に寄り添い対応する。
- 学校や行政関係各課との連携を密にし、社会・家庭・学校のニーズに対応したグループづくりに努める。
- 無理なく息の長い活動を目指す。

活動拠点	西予市教育保健センター	講座・学習 会開催数	7 回	相談対応 件数	8 件	訪問活動	9 件
広報活動	3 回	連携・協力 団体・機関	保育所(認定こども園)17か所、幼稚園4園、小学校12校、中学校5校、公民館25館、児童館、学校教育課、子育て支援課、健康づくり推進課				
チーム スタッフ	地域コーディネーター	1 名	子育てサポーター・リーダー	名	民生委員・児童委員	1 名	
	元教職員	3 名	PTA役員	名	保健師	1 名	
計 12 名	心理士・スクールカウンセラー	名	支援団体・NPO関係者	名	その他	6 名	

取組の概要

<主な取組内容>

● プレママ・ママcafe

- ・プレママ・ママが気軽に話せるきっかけづくりの場。もうすぐママになる方や新米ママ、市外出身者などを対象にしている。市外出身のママから身近に気軽に話せる人がいないと聞いたことがきっかけ。

7/30(木)、10/8(木)、12/11(金) 参加者 延べ57名

● 家庭教育出前講座の実施

- ・「親子で食事習慣を身に付けよう！」
卯之町幼稚園の園児を対象に食事のマナーについて寸劇をして、園児たちに間違いを発表してもらった。

9/9(水)10:30～12:00 参加者 計37名

- ・「親子で生活習慣を見直そう！」
宇和町小学校1年生の児童・保護者みんな一緒にアンケートや睡眠についての〇×クイズを行った。

11/12(木)13:30～14:30 参加者 計149名

● 寄り添い健やかな子育てを支える相談活動

- ・定期相談は、年間計画を基に毎月第2・4木曜日の13:30～15:30に実施し、電話相談は、平日の9:00～17:00に対応。要望があれば学校への出前相談を行う。
- ・訪問相談(家庭訪問)は、園・学校で抱えきれない子どもや保護者の問題に対応。福祉課等の子育て関連機関と連携し、親の抱える問題を家庭訪問等で支える。

● 定例会での研鑽・情報の共有

- ・計画、実践、反省へとつながり話し合いや情報交換等で情報の共有、意識統一を図る。毎月第2水曜日に実施。



(プレママ・ママcafeの様子)



(我が家の生活習慣を意見交換)

保護者の感想

- ・コロナ禍において、ママが会話できる場所はとても大切だと改めて思いました。
- ・我が家での悩みは、他の家庭でも悩まれていることが多く、それぞれの家庭で工夫していることを聞いて参考になりました。

<特色ある取組>

● 出前講座「親子で生活習慣を見直そう！」

子どもたちは、ソーシャルディスタンスを取るため、ずっと同じ所に座ったまま、真剣に話を聞くことができた。後半のワークでは、保護者が6～7人のグループで生活習慣について聞いてみたいことや困っていることなどを話し合った。



(座ったままの〇×クイズ)

事業を実施して

【成果】

- ニーズに合った支援を新たに実施することができた。
(学校への出張相談、出前講座、ママcafe)
- 食事、生活習慣、発達など関心のあるテーマに関する講座を実施した。

【課題】

- 人に気軽に会いにくい状況下での支援
- 保護者が参加しなくなるイベント、講座づくり
- 相談先としての認知度の向上、相談しやすい環境づくり

宇和島市家庭教育支援チーム【宇和島市】

～大きくなあれ うわしまっ子～

◆活動の目的・理念

- 地域の実態を把握し、子育て中の保護者とパートナーシップをとりながら、豊かな人間関係が持てるようにする。
- 身近な環境や人材を生かしながら、様々な活動を通して保護者の悩みを引き出し、解決の支援をする。

活動拠点	宇和島市教育委員会	講座・学習 会開催数	4 回	相談対応 件数	件	訪問活動	件
広報活動	3 回	連携・協力 団体・機関	市内保育所24か所、幼稚園10園、小学校28校、公民館30館、市役所保険健康課				
チーム スタッフ	地域コーディネーター 名	子育てサポーター・リーダー 2 名	民生委員・児童委員 4 名	元教職員 4 名	PTA役員 名	保健師 名	
計 17 名	心理士・スクールカウンセラー 1 名	支援団体・NPO関係者 名	その他 6 名				

取組の概要

<主な取組内容>

● 親の子育てを応援する学習会の開催

- ・市内30館の公民館とタイアップし、学校の参観日など保護者の集まる機会をとらえて子育て学習会を開催。

- ① 親子のふれあい体操～ミュージック・ケア～
- ② 親子のコミュニケーション～ものづくりを通して～
- ③-1 基本的な生活習慣について
- ③-2 子どもの未来をひらく自尊感情の育成
- ④ 食育講座～1日元気！めざましごはん～
- ⑤ 本に親しもう～読み聞かせ・本の紹介～
- ⑥ 子どもの心と体の健康づくり
- ⑦ 親子でうどん作り
- ⑧ ネット社会と子どもたち



(子育て学習会(子どもの未来をひらく自尊感情の育成))

● 必要な支援へとつなぐ相談活動の実施

- ・毎月1回定例会を開催し、子育て学習会の調整や相談活動に係る意見交換チームの活動に関する協議などを行っている。

保護者の感想

- ・いつもはあまり見せることのない、大人の一生懸命遊ぶ姿を子どもに見せることができて、よかった。
- ・子どもが増えてドタバタの毎日ですが、先生の「量が無理でも、質の愛情を」という言葉を胸に、これからも子どもたちと過ごしていきたい。

<特色ある取組>

● チーム員による幼・保・小学校への訪問活動の実施

チームと幼・保・小学校との連携を密にする目的で、年に数回チーム員による支援を実施しており、情報交換をする中で、家庭教育支援の充実に効果をあげている。

● ほのぼ～のカフェ(子育て座談会)の実施

ほのぼ～のカフェと名付けて、年に数回子育て座談会を実施している。保護者や地域の方々と一息つきながら、子育てに関する相談をし合える場を提供している。(令和2年度はコロナウイルス感染症の影響により、中止)



(子育て学習会
(親子のふれあい体操))

事業を実施して

【成果】

- 子育て学習会の中で大人と子どもの両方が楽しんで学習を行うことができていた。保護者へ向けた、講話形式の学習会では食生活等の大切さについて保護者の心に残る学習を行うことができた。

【課題】

- コロナウイルス感染症の影響により、学習会をほとんど開催することができなかった。感染症対策を行い、安心して、参加できるように開催方法を検討したい。

あいなん子育て応援グループ【愛南町】

～子育て家庭の応援団～

◆活動の目的・理念

- 乳幼児から高校生までの子どもを持つ保護者を対象に、子育てのニーズに応じた直接的・間接的な支援を行う。
- 関係機関との連携を必要に応じて行い、切れ目のない継続性を重視したサポート活動を行う。
- 保護者との関係性を築きながら、心理的・教育的な面における身近なサポーターとして関わる。

活動拠点	愛南町役場		講座・学習 会開催数	3 回	相談対応 件数	10 件	訪問活動	件	
広報活動	3 回	連携・協力 団体・機関	町内保育所9か所、幼稚園1園、小学校12校、中学校5校 子育て支援センター、児童館						
チーム スタッフ	地域コーディネーター		名	子育てサポーター・リーダー		名	民生委員・児童委員		4 名
	元教職員		5 名	PTA役員		名	保健師		1 名
計 10 名	心理士・スクールカウンセラー		名	支援団体・NPO関係者		名	その他		名

取組の概要

<主な取組内容>

● 子育て相談

月1回(第2木曜日)午後1時から3時まで、御荘文化センター内において、電話や面談で子育ての悩みなどに関する相談を受け付けている。希望者には、別の日時や場所での相談にも応じる。

● 子育て通信発行

子育て広報誌(あいなん子育て応援グループ通信)を年間3回発行し、家庭教育や子育てに関する情報を提供している。

町内の小中学校・幼稚園・保育所の保護者や子育て支援施設利用者に配布している。

● 子育て支援活動

町内のイベントでの託児支援を行っている。支援を行うことにより、グループの周知を図ると共に子育て家庭との交流を広げている。



(相談対応)



(子育て広報誌

「あいなん子育て応援グループ通信」)

保護者の感想

- ・子育て講座に参加することで、他の保護者と話す機会ができてとても良かった。
- ・子育て通信を見て、子育て相談活動のことを知った。いざというときに相談できる所があるのはとても心強い。

<特色ある取組>

● 子育て講座の実施

親子で楽しめる子育て講座を実施している。子育て講座では、学習と体験を組み合わせ、気軽に参加できるようにしている。



(貝殻のフォトフレーム作り)



(まつぼっくりツリー作り)



事業を実施して

【成果】

- 自分たちで企画して、子育て講座を実施することで、自分たちの活動を周知するとともに、親子のふれあいの機会や学習の場を提供することができた。
- 他の子育て支援団体の活動支援を行うことや、研修会に参加することで、家庭教育支援・子育て相談に対応することができた。

【課題】

- 町内の他の子育て支援グループとの連携をさらに深め、支援活動の充実を図る。
- 年間3回発行している子育て通信が、さらに保護者に活用される内容となるよう努める。